

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. **69**
April 2007



2006年度 国際医療福祉大学・大学院 学位記授与式

谷 修一学長式辞

医療経営管理学科「卒論特別賞」

close-up卒業生・修了生



2 2006年度 国際医療福祉大学・大学院 学位記授与式

卒業生・修了生概要

4 谷 修一学長式辞

医療経営管理学科「卒論特別賞」

5 close-up卒業生・修了生

8 小田原キャンパスレポート 第3回

理学療法学科長 黒澤和生/バレーボールサークル

9 大川キャンパスレポート 第8回

准教授 柴田 滋/サッカー部

10 研究最前線 第2回

国際医療福祉大学大学院・外山比南子教授、長谷川高志准教授「時代のニーズに応えられる病院情報管理者の育成」

11 Topics & Columns

高木理事長が日本医学ジャーナリスト協会で講演/ニッセイ同和・岡崎名誉会長、須藤会長と奨学生との懇親会を開催/第二回初期臨床研修指導医養成ワークショップ/「コラム」サークル紹介・ボランティアサークル「かざはな」/2007年度入試が終了/臨地実習指導者会議を開催(視機能療法学科)/国家試験壮行会を開催(言語聴覚学科)/福岡リハビリテーション学部の新校舎が竣工/大学院・東京サテライトキャンパスが移転/乃木坂スクール2007年度前期開講のご案内/大学院に臨床心理学専攻開設/グループホーム青山がオープン/「コラム」「私のおすすめ本」第4回(視機能療法学科教授:小原喜隆)/新規着任教員紹介/「コラム」「私の主張」第4回(放射線・情報科学科教授:飯沼一浩)

16 施設インフォメーション

〈国際医療福祉大学病院〉祝・国際医療福祉大学病院除幕式、ようこそ医療安全管理室へ/〈三田病院〉「三田がんフォーラム」レポート/〈熱海病院〉第26回日本画像医学会、第4回糖尿病フェスティバル/〈化学療法研究所附属病院〉生まれ変わる化研——新病棟オープン竣工式・内覧会開催/〈山王病院〉晴れ着姿で救命活動——日本堤消防署長より当院看護師に感謝状贈られる/〈高木病院〉日本未病システム学会・大川市主催「未病と健康のつどい」開催

20 医療福祉チャンネル774/お知らせ



▲学長賞を授与される各学科の学業成績優秀者

▲修了生を代表して謝辞を述べる金尾智子さん(放射線・情報科学分野)

2006年度 国際医療福祉大学・大学院 学位記授与式

晴天に恵まれた三月九日、多くのご来賓、ご両親、教職員の皆さんが参列し、学部卒業生八二四名(保健学部五四四名、医療福祉学部二八〇名)、大学院修了生二五一名の学位記授与式が行われた。

コーラス部により校歌「未来への扉」が斉唱されたあと、谷修一学長より卒業生総代の視機能療法学科・田澤聖子さんに学部学位記が、開原成允大学院院長より博士課程修了生総代の張瑩さんに、修士課程修了生総代の小森現代さんに大学院学位記が授与された。また、各学科の学業成績優秀者(右表参照)には、谷学長より学長賞が贈られた。

谷学長の式辞(次頁)に続き、高木邦格理事長が「これからは高い専門性に加え、優れた人格、教養を兼ね備えた人間でないと生き残れない時代。国際医療福祉大学卒業生の誇りを持つ

Table listing graduates and their departments. Columns include names, departments, and counts. Includes a section for '2006年度大学院修了生' and '2006年度卒業生'.



卒業生総代として学位記を授与される視機能療法学科・田澤聖子さん(写真上) 留学生の張 瑩さんが博士課程修了生の総代に(写真下)

博士課程保健医療学専攻修了者 下井俊典(理学療法分野) 論文:「改変版日本語「長まき」の作成による運動性筋痛の評価方法と研究デザイン」の検討 石井博之(理学療法分野) 論文:「中国で普及可能な短下肢装具の研究」 論文:「中国で普及可能な短下肢装具の研究」 論文:「中国で普及可能な短下肢装具の研究」

窪田 聡(福祉援助工学分野) 論文:「電動キヤッチベッド背上げ時の姿勢評価」 論文:「福祉援助工学分野」 櫻井 寛子(福祉援助工学分野) 論文:「短下肢装具の底面制動モーターが片麻痺者の歩行へ与える影響」

冬晴れの3月9日(金)、国際医療福祉大学の那須アスリーナにおいて、国際医療福祉大学・大学院の学位記授与式が執り行われた。晴着に身を包み、充実した学生時代の思い出と新生活への期待を胸に、晴れやかな笑顔で胸を張る卒業生の姿が印象的であった。

学長式辞

(要旨)

谷修一学長



▼本日卒業した学生は八二四名、学位授与を受けた大学院生は五一一名、二〇名の博士も誕生しました。修了生の中には、生殖補助医療胚培養分野で六名が修士号を取られました。この分野は、本学がわが国で唯一の大学院修士課程であり、本学でも初めての学位であります。

▼皆さんがこれから入っていく医療や福祉の現場は大きな変革期を迎えています。しかしながら制度が変わっても、サービスを提供する専門職とそれを持つ病気の人や障害を持つ人がいることに変わりはありません。サービスを提供する側の都合ではなく、消費者の論理を優先させ、利用者を中心にしたサービスを考え、いくことが必要な時代になってきています。▼本学では皆さんに医療・福祉の専門職としての教育を行ってきました。専門職の理想の姿とは、専門分野の背景にある学問と技術の進歩発展に遅れないよう、生涯にわたって勉強を続けていく心構えを持ち、また大学の基本理念に「ともに生きる社会を築く」とあるように、個人の利益を追求するのではなく、社会に対する奉仕が基本であり、自分自身に対する厳しい自己規律と強い倫理観、そして常

に暖かくやさしい心遣いが求められます。▼今日卒業される皆さんの大多数は既に就職が内定されています。今年の二月末現在で本学に寄せられた求人数は、卒業生一人当たり六〇倍で、この数字は年々増えています。これはやはり、皆さんの先輩たちの社会での活躍が認められてきたからこそその結果であります。先輩たちにはできることが、皆さんにできないはずはありません。自信と誇りを持って本学を後にしてください。そして皆さんの真剣に歩んでいく姿がとりもなおさず、後輩たちに希望を与えることにもなることを忘れないでいただきたい。

▼皆さんは学位だけを手に入れたのではなく、さまざまなボランティア活動やサークル活動を通じて、人生のいかなる局面に立ち向かうのにも充分な知識と精神とそして多くの友人を得たことと思います。これから皆さんに必要なのは、実社会での経験です。これから自分の仕事・職業を通じて世界を見て、感じ、考え、対処しながら経験を積んでいく、第二、第三の道のりのほうが学生生活より長く、大きく人間を形成していくはずで、失敗から学べることもたくさんあります。失敗を恐れず何事にも挑戦していくチャレンジ精神も、忘れないで欲しいことの一つであります。▼今この瞬間を情熱と勇気を持って生きることこそ、若い人たちに与えられた特権であります。皆さんが、真に清冽にして実りある、そして悔いすることのない人生を歩まれんことを切望しています。

CLOSE UP 卒業生

クローズ・アップ

「生きる力」を支える看護師に

看護学科 遠藤雅幸

「人と同じことをやっているのは駄目ですよ。母親がいつも私に言っていた言葉の一つです。その母は一年前に亡くなり、残念ながら卒業の報告ができなくなりました。しかし、きつと今でも天国から私の卒業報告を待っていると思います。今、自身の大学生活を振り返ってみると、確かに人とは少し違っていたかもしれませんが、大学在籍中に計八か国を訪れ、大学生活のうち一年四か月間は国外で国際保健学を学びました。国や年齢を超えた「生と死」を見つめ、看護学を学んできました。

「医師に治せない患者はいるが、看護師が看護できない患者はいない」。私は、人が「生きる」ということは想像以上に深く、大変なことだと思います。看護師は「治療者」ではありません。しかし、だからこそ人々に寄り添い、人々と共に考え、人間の持つ「生きる力」を引き出そうとすることができると感じます。



かけがえない人々との出逢い

言語聴覚学科 高玉智恵



国際医療福祉大学に入学する前、私は専門学校の非常勤講師をしていました。今まで教えていた学生と同年代の方々がクラスメイトになるという不安もあり、目立たぬように日々を過ごそうと思っていました。気がつけば皆に「姐さん」と呼ばれるまでに打ち解けていました。目立たないはずが学科委員までやらせていただき、楽しい大学生活を送ることができました。

同年代のクラスメイトのいない私にとつて、学科事務室で同年代の助手の先生方とおしゃべりする時間は心のオアシスでした。四年間を振り返っても、学科委員として先生方と協力して取り仕切った「オーブンキヤンパス」が、一番の思い出として心よみがえります。

多くの仲間にも恵まれ、素晴らしい先生方と出会うことができ、言語聴覚学科九期生で良かったと心から思っています。以前に老人施設で勤務した経験がありますが、この四月からは、小児施設で働くことになりました。今までの経験を活

卒業論あれこれ



医療経営管理学科長の高橋泰教授を囲んで、卒業特別賞を受賞した高橋佑典さん(左)と吉田祐介さん(右)

卒業論文特別賞を受賞!

卒業生の皆さんは、それぞれに精魂こめて卒業論文を仕上げたわけだが、数多くの力作のなかから一つ、こんな卒業論を紹介したい。医療経営管理学科の高橋佑典さんと吉田祐介さんの手による「バリアフリーの現状一考察」と題する共同論文である。この論文は、卒業式の後に行われた医療経営管理学科の学位記授与式で、同学科一二九人の卒業生の卒業論のなかから、「最優秀賞」「優秀賞」と並んで、極めてユニークな論文であるとして「特別賞」を授与された。

「近年、わが国では、車いすを利用する人口が増え、バリアフリーという言葉がよく耳にする。しかしバリアフリー化がなされていない場所や、さらなる見直しが必要な場所がたくさんある。そこで、実際に車いすでの利用を体験し、いくつか

バリアフリーの現状一考察

一総合評価表一

No.	施設名	平均点
1	国際医療福祉大学	3.7
2	JR那須塩原駅	2.1
3	JR西那須野駅	1.8
4	東武新鹿沼駅	2.6
5	JR鹿沼駅	1.9
6	大田原市立図書館	3.6
7	鹿沼市立図書館	4.1
8	大田原 東武	4
9	商業施設A	3.1
10	商業施設B	3.2
11	商業施設C	2.1
12	商業施設D	2.4
13	ヨークベニマル大田原店	4
14	ヨークベニマル鹿沼店	3.9
15	たいらや大田原店	4.2
16	たいらや鹿沼店	3.6
17	マツモトキヨシ大田原店	3.9
18	マツモトキヨシ鹿沼店	3.5
19	マツモトキヨシ鹿沼西成店	3.6
20	カスミ鹿沼店	3.6
21	ヤオハン鹿沼店	3.8
22	商業施設E	2
23	商業施設F	3
24	カワチ薬品大田原南店	4.1
25	カワチ薬品大田原西店	4.2
26	商業施設G	3
27	商業施設H	2.9
28	商業施設I	3.1

全体の平均点: 3.3
分野別平均点
駅: 2.1 図書館: 3.9 デパート: 3.6
電器店: 2.6 スーパーマーケット: 3.5

これら評価対象項目を1から5の五段階で評価することにし、施設ごとに綿密な実地調査を踏まえたうえでの詳細なコメントや改善点などの提言が述べられている。まさに足で書いた論文である。誌面の制約上、「総合評価一覧」のみを要約して掲載する。

(東京事務所出版広報室 山内邦雄)

しかし、言語聴覚士として、領域を問わずいろいろな方々のお手伝いをしていくらと思っています。

マラソンを通じた自分への挑戦

視機能療法学科 萩島慎一

マラソンに熱中した大学生活でした。高校時代は五〇〇〇mが専門でしたが、怪我や故障が多く、不完全燃焼のまま卒業を迎えてしまいました。そこで、大学では自分の新たな可能性に挑戦するため、マラソン競技に打ち込みました。

最も印象に残っている大会は、今年の二月四日に行われ、学生最後のマラソンとなった「別府大分毎日マラソン大会」です。来大阪世界陸上選手権の代表選手選考会を兼ねたこの大会には、国内外の一流ランナーが参加し、テレビ中継もされるなど、ランナー憧れの大会です。しかし、この時期は就職活動や試験勉強などで十分な練習が積めず、学業とマラソンの両立に苦戦しました。結果は三五キロ関門でリタイアという悔しいものですが、自分への挑戦は成



し遂げることができたと思っています。この悔しさをばねに、社会人になっても競技を続けていきたいと思っています。私にとってマラソンは、自分を磨くことができる「自分への挑戦」の一つなのです。いろいろなことに挑戦できる大学生活、学

業の傍らに興味あることに打ち込み、自分を磨いてみてはいかがでしょう。

自分の選んだ道を信じて

放射線・情報科学科 蛸佳代子

私の大学生活は、その大半をテニス部の活動や、その仲間と過ごす時間が占めていました。私にとってテニス部は居心地の良い場所、元気をもらえる場所であり、そして息抜きできる場所でもありました。また、自分自身を見つめ、成長させられた意味でも、とても大切な場所でした。



大学の最後の一年間は、先生とメンバー全員がまとまった、最高の卒業研究グループで過ごすことができました。同じ目標に向かって一緒に頑張れる存在がいるというのは、本当に心強いことでした。

今思えば、診療放射線技師を目指してこの大学を選んだことも、テニス部に入ったことも、実習先も、卒業研究グループも、みんな自分にとってプラスになる良い選択でした。そして幸せなことに、いつも誰かに支えられてこまどくることができました。これからは私も誰かの支えになれるよう、また、自分が選んだ道が「良かった」と後で満足できるよう、精一杯頑張っていこうと思います。そして、これからも人との繋がりを大切にしていきたいと思っています。

二〇〇六年度には、一三一名の修士修了者と二〇名の博士修了者（及び論文博士三名）が本学大学院を巣立っていきます。この中には「生殖補助医療胚培養分野」初の修了生六名がいます。修了生は、それぞれの分野で今後大いに活躍する人たちですが、その中には、本学大学院の特徴を反映して独自の道を切り開いてきた人たちがいます。今後の大学院生の励みにもなるかと思えますので、ご紹介いたします。

生殖補助医療胚培養分野の一期生

黒 滝陽子さんは、生殖補助医療胚培養分野の一期生として修士課程を修了しました。バイオカレッジ京都バイオ工学科細胞工学コース卒業後、京都大学理学部分子発生センターなどの研究技術員を経て本学大学院に入学しました。「ヒトの生殖補助医療（不妊治療）技術の



黒滝さん（右後）、同期の山口さん（左後）、佐藤さん（右前）、高田さん（左前）

もとなつたマウス発生工学を用いた基礎研究に一〇年間携わってきました。しかし発生工学の技術があるだけではヒト胚を扱う生殖補助医療に携わることにはできないと考え、タイムリーに新設された生殖補助医療胚培養分野に入学しました。専門講義は毎回充実した内容で、日本でもトップクラスの施設でのシビアな実習とともに全カリキュラムを修了し、確実に自分の中で大きな変化を感じました。またすでに胚培養士であったり、大学を卒業してそのまま院に入学した人など、バックグラウンドのさまざまな仲間との交流はとても楽しく、専門分野を勉強する上で非常に恵まれた環境で二年間を過ごすこ

とができました。大学院修了後は生殖補助医療専門施設のリサーチ部門でさまざまな技術や現象の科学的裏付けをし、生殖補助医療の従事者や患者様に直接返るような研究成果を目標にがんばっていきたいと考えております」

働きながら修士課程で学ぶ

頭 鳥潔さん

鳥潔さんは、株式会社コムソンの常務取締役です。仕事の中でケアマネジャーと介護事業者の連携の重要性を感じ、その実態を調査研究しました。

「仕事をしながら講義を受け、研究テーマの論文を書くためには、時間調整の大変さがありました。しかし、日々の業務では細かい点しか見えなかったところが、講義を聴くことで改めて自分が働いている業界を俯瞰して見ることで、新鮮さと総合的な視野が得られたと思います。また研究テーマは今の自分の仕事に直結するもので、今後の業務に大いに活かすことができると思っています。大学院は時間調整という大変さはあるものの、自分自身の仕事の幅を広げるのにはとても役立ちます。今は、できれば次のステップに進みたいと考えています」



頭鳥さん

学の皆様、ありがとうございました。優秀な理学療法士になるだけでなく、皆様のおかげで人間としてひと回り大きく成長できたことを確信しております」

張 瑩さん

張さんは、大連医科大学を卒業し、制度を中国に適用することを研究しました。本学に学ばれた動機は陳霞芬先生がおられたからだということで、陳先生の熱心な指導を受けました。

「研究にあたり、ご懇篤な指導を賜った諸先生方の教育へのご熱意に深い感動を覚えました。大学教育とはかくあるべしと思ひ、終生忘れ得ない体験となりました。これから母国の中国に戻り、できれば大学で教鞭を取りながら、日本をはじめ諸国の高齢者社会における介護保険制度の研究に従事し、中国における多様な地域特性に適した介護保険制度の導入に寄与したいと思っております」

張さん



厚生省を退職して修士課程に

博士号をめたく受けられたのは、もちろん留学生だけではなくあります。ご紹介したい人ばかりですが、誌面の関係で



佐山さん

佐 山静江さんは、獨協医科大学病院の看護部長で、病院にバランスド・スコア・カードという経営手法を導入された経緯を論文にされました。このように大きな病院でこの手法を導入した例は、まだ日本にはほとんどありません。

「特に診療報酬改定の問題が大きいのしかかってきた時期であり、大学院の先生方、医療現場に立つ先生方による講義はタイムリーな情報が多く、総合的な視点から身近な現状を分析する必要性を学びました。経営手法をテーマとした研究は、一年後の病院機能評価審査に即刻活用できる業務直結型の研究となり、今後も継続して経営に活かす工程にもなっています。病院管理の役割を持っているからこそ学びが広がり、現状からの研究ができ、継続できる課題を持つという大学院は今の自分に必須だったと考えています。そして、時間は作れるものと実感しました」

南 弥生さん

弥生さんは美容師で、美容室と訪問美容事業の経営者です。その仕事の中から化粧品が要介護高齢者に与える良い影響に着目し、エピソード記述法を使って研究されました。見過ごされがちな重要な問題です。

中村さんのみをご紹介しましょう。

中 村陽子さん

村陽子さんは（旧）厚生省にお勤めでしたが、そこで医薬品の安全問題を長年担当され、厚生省を退職された後、この問題をまとめて論文にしたいという思いから、修士課程に入学されました。

「あつという間の三年間で、医薬品の安全や医療の安全をどうすれば達成できるか、という大きな研究目的を持って大学院に入学したものの、何からどのようにつけたいか、皆目検討がつかない状態でした。このような大きな研究課題に対し、論点を一つ一つ解きほぐしながら、これを論文としてまとめられたのは、教授陣の根気あるご指導と励ましの賜物です。『あなたは、何をしたいの？』『説明文だけでは論文にはならないよ！』『前と後ろがつかっていない！』等々、曖昧な箇所に対して鋭いご指摘を受けながら、論文が書き上がりました。ゼミの議論を通じて、自分の言いたいことを筋道立ててまとめ、発言できるようになってきました。人生の先輩といえる経験豊富な学友とのホットな議論や、教授らとの合宿・飲み会が忘れられない思い出です。論文を書き上げるということは正直大変なことでしたが、博士号をいただけただけの安堵感と達成感に比べ、卒業してしまふのは寂しいのですが、今後時々、国際医療福祉大学大学院の雰囲気に戻ってきます」

（構成・出版広報室 山内邦雄）

南さん



「入学を決意したのは新しい事業を始めたばかりのときで、時間だけではなく、経済的にも、また家族や周りの協力が得られるかどうか不安だらけでしたが、講義では現場で起こっているタイムリーな問題が取り上げられ、毎日が発見と知ることの楽しさで、あつという間の二年で得ることは経営にとって何より大事なことで、さまざまな分野からの見聞を広めつつ、問題を深く掘り下げることができたのは、諸先生方や共に学ぶ仲間がいたおかげです。これからも『美容と福祉』という新しい分野の研究を続けて行こうと思っております」

国際的な広がりを持つ博士論文

博士課程では、本学の名称にある「国際」の通り、二人の留学生が博士号を取得して帰国します。二人とも本学の修士課程



モラヤマさん

モラヤマさんは理学療法士で、理学療法法の立場から高齢者の介護を研究しました。

から博士課程に進んだ学生で、大田原、福岡および東京で五年間勉強に励みました。フィリピンのモラヤマ（Dorothy Tan Morata）さんと中国の張瑩さんです。

モ ラヤマさん

「博士論文を完成させるのは易しいことではありませんでした。多くの時間と費用をかけ、集中して努力を重ねる必要があります。周囲の人からの支援、指導、理解も欠かせません。外国人留学生となれば、なおさらのことです。しかし私は、国際医療福祉大学の先生方の指導と支援を受けて、粘り強く研究を進めることができました。目標を達成できた今の高揚した気持ちを言葉では言い表せません。フィリピンに帰国後も、日本のこと、国際医療福祉大学のことは決して忘れません。大学院で学んだことだけでなく、日本人たちを理解できたことに感謝したいと思います。日本の皆様、国際医療福祉大



一年を振り返って

理学療法学科長 黒澤和生

して鉄板を開き、仲間の輪を広げていった。また、同じく五月に行われた市民公開講座では、小田原市民の方々や近郊から訪れた参加者の人々に医療・福祉の分野を紹介した。学生は初めてユニフォームに袖を通して、学んだ知識をいかんなく披露した。

夏のオープンキャンパスではさらに進んで習得した医療の知識を披露し、参加した市民の方々や受験生に対して、実習器具の説明やその効果などを紹介し、好評を呼んだ。

大学祭「潮風祭」では発足したばかりの学友会と実行委員が中心となり、イベントや屋台などを企画、見事大成功に導いた。大学祭前日には泊り込む学生もいるなど、歴史に残る大学祭にしたいという学生全体の熱い気持ちを感ずることができた。

サークル活動も盛んで、学友会、部・サークル局が各サークルの部長を集めて体育館利用の日程などを調整し、大学祭で行われた目白大学バレーサークルとの招待試合や野球サークルの大田原本校との親善試合など、学生たちが自ら率先して活動を行った。

冬休み直前に行われたスポーツ大会では三学科いっしょになって、実行委員が企画した競技を心から楽しんだ。学科同士の対抗戦は意地と意地がぶつかり合い、最後まで優勝が分からないという白熱した戦いとなった。

人間としてより一層の成長を

こうして一年を振り返ってみると、医療・福祉の世界に飛び込んだばかりの学生たちであるが、その方面の知識の蓄積だけでなく、一人の人間としても大変成長している



目白大学との親善試合

ことを実感させられた。一つのことを成就するために、必ずそのための準備が必要である。学生たちが成長したのは、授業や多くの大学イベントなどを通じて、一つのことを成就するための努力を怠らなかつたからではないかと感じている。何ごとでも段取り上手になることが、人生を成功に導くことを知恵として身につけてくれたと思う。大学で出来ることは、自ら生きていく知識

対外試合での初勝利が部員全員の目標

バレーサークル部長 理学療法学科二年 井上由美子さん

入学して一年が経過しました。サークルがなかった小田原保健医療学部にもバレーサークルを立ち上げようと思ったきっかけは？高校のときにバレー部に所属していたわけでもなければ、バレーボールの経験がなかったわけでもないんですが、きっかけと言え、高校生のとき、体育で隣のコートでバレーボールをしているのを見て、「やってみたい！」と感じたのがきっかけです。

バレーサークルについて教えてください。

を身につけることであると思う。そして、授業や実習で勉強し、大学イベントやサークルなどを通じて人の輪を広げていく。いずれ医療人として社会に羽ばたいていく学生たちに対して、これからの知識の蓄積だけでなく、人間として厚みのある成長を上げていってほしい、と小田原の教職員すべてが願っている。

回、体育館で練習をやっています。この一年の活動を振り返って大変だと思っただけですか？

夏の合宿ですね。練習自体は大学の体育館を使用したのですが、宿泊施設として小田原競輪の宿舎を借りて、二泊三日の夏合宿。宿舎の手配や日程の調整など、準備が大変でした。また、大学祭（潮風祭）で目白大学と親善試合を行いました。初めての対外試合ということで楽しみだったのですが、やはり準備は大変でした。夏合宿も親善試合もそうですが、一つの大会やイベントを行うためには、実施のための調整を細かくやっておくことが大切であることをこの一年間のサークル活動を通じて学びました。

これからの目標は？

まだ対外試合で勝利したことがないので、今後は練習を重ね、待望の「初勝利」を手にするのが部員全員の目標です。

メッセージなどありますか？

三月二日に北里大学と合同練習・練習試合を行いました。練習試合は引分けでしたが、他大学と競い合うことで今後の活動のためにもよい経験となりました。四月には新入生を迎えます。新入生の部員を募り、サークル一丸となって強いチームを作っていきたいと思っています。（取材・学務課 村山京三）



学部開設二年を迎えて

准教授 柴田滋

ヨンについての認識も自己の将来についての認識もまだ漠然としていたでしょうが、二年を経過した今日、多くの学生が自己の目標をさらに明確に自覚しながら毎日の講義や演習に臨んでいるようです。高校までの教育ではなかったような専門的な学問を少しずつ経験する中で、リハビリテーションを学ぶことに対しさらに興味が増え、またその熱意も増しているようです。医学の発展や医療に対する人々の要求の変化など今日の医療の現状を見ると、チーム医療や包括医療がますます重要になり、それに伴ってリハビリテーションの専門的技術を有する人材の育成も重要性を増してきています。専門的な講義を受講し、また自主的な研究活動を通じて学生自身もその認識を確かめていることでしょうか。

医療に関して多面的な見識を深めてほしい

言うまでもなく医療は単に科学技術の問題ではなく、現代社会における人間関係や社会生活の一端であります。したがって医療は社会的、法的な関心事でもあり、医療制度や医療費保障制度、あるいは介護その他の保険福祉制度が今日の大きな社会的問題になっていることは周知の事実です。また医療過誤や患者の権利、ひいては医療従事者の刑事責任が追及される事件なども社会的な関心事となっております。医療を多面的で広い視野から、

大川に福岡リハビリテーション学部が開設されて二年になります。平成一九年度は言語聴覚学科が新設され、理学療法学科も増員されて、ますます多くの学生がわれわれのキャンパスに集まります。二年が経過して、開設当初に見受けられた学生の緊張感もほぐれ、クラブ活動や学園祭などさまざまな大学行事が行われる中で、キャンパス独自の雰囲気も形成されつつあります。また施設も拡充され、学生の勉強意欲や大学生活への期待はさらに高まってきているようです。

重要性を増すリハビリテーション

本学部の学生については、将来の進路について明確な目標を持ち、リハビリテーションの道へ進むという目的の実現のため入学してきた学生が多くを占めます。とは言っても入学時にはリハビリテーシ

台風の目宣言！

理学療法学科三年 サッカー部部长 宮崎啓文

一期生として大学に入学し、サッカー部を創り、自分達が創ったサークルで活動ができることにとても感謝している。顧問の大庭先生を中心に後藤先生などさまざまな支えがあつて初めて、一つのチームとしてサッカーをすることができた。

現在、部員が少なく、サッカー部としては少し物足りない。しかし逆に、少ない人数だからこそ、まとまりやすく、また仲良く、和気あいあいとした雰囲気練習している。

部員だけで行う練習に加え、現在は、自由参加で大川の社会人チームの練習にも週二回は参加している。対外試合は、人数の関係もあり、一人制のサッカー大会には今のところ出場していない。しかし、フットサルの大会には昨年は二度出場した。惜しくも優勝は逃したものの、優勝まであと一歩といたまわずの成績を残すことができた。



新年度はリーグでの公式戦も実現！



春からの新グラウンドでの練習に夢が膨らむメンバー

部サッカー部が、来年度旋風を巻き起こし、台風の目となることを、ここに誓つ。

また専門的で深い視野から見つめなおして研究することは、これからの医療従事者にとって是非必要なことでしょうか。私自身は社会法を研究する法学者として、医療に関する法制度とその法政策の背後にある現代人の倫理観などを、講義を通じて学生に解説しています。学生にとっては直接その専門性に関わる問題ではないので、とっつきにくい面もあるよ

うですが、わが国の社会システム全体があり方が大きな転換を余儀なくされている現状にあつて、大学人としては、学生時代にこそ医療に関して多面的な見識を深めてほしいという気持ちを込めて講義に臨んでいます。それによって学生が、大学でリハビリテーションを研究することの意義の一端を感じてくれればと思っ

研究最前線

第二回

外山比南子教授・長谷川高志准教授
(国際医療福祉大学 大学院)

時代のニーズに応えられる 病院情報管理者の育成

本学では多くのすぐれた研究が行われていますが、その一端を紹介します。患者が病院を選ぶ時代に

本年の四月に施行される改正医療法は、都道府県にホームページなどで「医療情報を公開することを義務づけています。診療時間、診療科目などの基本情報に加え、専門医の配置数、病室ごとの手術件数、入院の平均在院日数、差額ベッド料など幅広い情報が公開され、患者が医療機関の質を調べ比較検討する際の材料となることでしょう。このように患者が医療機関を選べるようになった今、医療機関側も「選ばれる医療機関」を目指し、サービスや経営を見直し改善していく必要があります。そこで求められるのが、病院内の情報をうまく管理・運用し、サービス向上や経営戦略に役立てていく「情報管理者」の存在です。

蓄積された情報を活用できるか

病院の経営に、情報技術は欠かせません。しかしながらこれまでの病院経営学は制度や経営理論に終始するものが多く、病院経営に情報を活用する」という視点が欠けていました。

「一定規模の医療機関であればIT化が進み、レポートをはじめ、その医療機関でど



教室には専用の電子カルテサーバ、データウェアハウスサーバ、受講生一人一台ずつの電子カルテ端末が備わっている。

んな治療が行われているかがわかるさまざまな情報が蓄積されています。ところがこれまででは、それらのデータを経営や医療の質の向上にうまく活用できていなかったのです」(外山比南子先生)

医療機関の情報を管理・活用できる人材の育成は国の課題でもありました。本校で講座を開講するにいたったいきさつを、長谷川高志先生はこう話します。

「本講座は、経済産業省による平成一六年度先導的分野戦略的情報化推進事業の中から『医療情報管理者育成のためのモデルプログラム事業』の委託を本校が受けたことから始まりました。本学からは開原成允大学院院長、外山比南子教授、高橋泰教授、阿曾沼元博教授、外部からは東京大学の大江和彦教授、川崎医療福祉大学の岡田美穂子教授など、日本の医療情報学の最高権威が集結して、カリキュラムの開発からテキストの執筆、講座の運営までを行い、現在の講座の基礎を作りました」

平成一七年四月開講以来、現在までに外部での出張講座を含め計五期を実施し、各期約二〇人が受講、これまでに一〇〇名弱の修了生を輩出しています。

データ活用とネゴシエーション

本講座では、実例の病院データを蓄積し

てシミュレーションプログラムを開発し、交渉プロセスを含めた授業展開でケーススタディを行います。まず以下のような事例が受講生に提示されます(教材より一部変更して抜粋)。

200X年1月、あなたはY病院の病院長に任命された。あなたはこの病院の経営危機を救うことを期待され、そのためのすべての権限が与えられている。この病院はある政令都市の中心から20km離れたところにある360床(一般300床/精神60床)の民間病院で、私鉄の駅から歩いて10分程度。近くに古い団地があり昔は若い人が多く住んでいたが、今は高齢者が多い。6km離れたところにある公的病院が1年前に建て替えし、電子カルテを入れたらしく、患者の待ち時間も短くなり評判がいい……(以下略)。

※実例と共に、過去1年の患者数、損益計算書、キャッシュフロー計算書などの基本データも別別に与えられます。

受講者はグループに分かれ、経営改善策(アクション)を考えます。アクションの実現に「交渉」が必要な場合(例えば「借り入れ」(銀行と交渉)、「人員削減」(職員と交渉)、「医師増員」(医局と交渉)など)は、教員がその交渉相手役となり模擬ネゴシエーションをします。受講者は交渉で合意が得られた条件をアクションとともに提出し、教員はそれらの条件をそれぞれのグループごとにシミュレーションプログラムに投入、アクション後の患者数や財政状況などを計算して返却します。そして再び、シミュレーション結果に基づいて新たな経営改善策を練っていきます。



▲交渉時には教員が「銀行融資担当」「コンピュータメーカー」「病院職員」などの交渉役を務める。

▶板書からも実例に即した講座内容であることがうかがえる。

「基本データ以外にも、必要な情報があれば受講者自身が診療データベースから抽出します。講座の前半で診療データベースの利用法について実習していますし、どんな情報が必要かを自分で考えることも大切です。また、できるだけ現実の問題に近い実例やデータを提供してシミュレーションを進めていきますが、単にデータを活用してシミュレーションするだけではゲーム感覚に陥る恐れがあります。だからこそ本講座では、生身の人間と交渉する。ネゴシエーションの過程を重視しています」(外山先生)

回を重ねるごとに、試行錯誤を繰り返して進化を続ける本講座。外部への出張講座を行うなど、社会的ニーズの高まりも感じられます。「現在の講座は、前述のドリムチームとも呼べるようなメンバーが教材の開発から指導まですべてに携わってききましたが、今後は、第二・第三のドリムチームとなる指導者を養成していくことが大きな課題の一つです。指導者を育成し、この講座をさらに広げていきたいですね」(長谷川先生)

(構成・出版広報室 今村美香)

トピックス

Topics

高木理事長が 医学ジャーナリスト協会で講演

三月五日、日本プレスセンターにおいて、日本医学ジャーナリスト協会主催による高木邦格理事長の講演が行われた。この協会は、本学の水巻中正教授、大熊由紀子教授が幹事を務められ、医療に関する報道の質を向上させることを目的としている。

「医療の現場から医療を考える」と題して行われた講演では、日本の医療の現状、診療報酬マイナズ改定による影響などのほか、当グループの病院経営にまで及ぶ内容となった。深刻化する医師・看護師不足問題、地域医療計画における問題点、医療法人制度などについても語られ、約一〇〇名の医療ジャーナリスト達が高木理事長の話に聞き入った。

(東京事務所出版広報室)



高木理事長の講演風景

ニッセイ同和・岡崎名誉会長、 須藤会長と奨学生との 懇親会を開催

二月二日(水)、本校の那須アスリーナ・レストラン「オーブ」に、ニッセイ同和損害保険株式会社の岡崎真雄名誉会長と須藤秀一郎代表取締役会長をお招きし、谷学長はじめ各学科長および同社から奨学金の支給を受けている奨学生二三名との懇親会が開催された。

この奨学金制度は、ニッセイ同和損害保険株式会社が同社の創立百周年記念事業の一環として、保健・医療・福祉分野に有為な専門職の育成をめざす本学の趣旨に賛同して設立したもので、平成九年に始まって以来これまでに八一名の学生が選ばれ、現在は二八名の学生が奨学金の支給を受けている。

谷学長の歓迎の挨拶に続き、岡崎名誉会長から、「大学で学んだ事を十分に活かし、医療・福祉の面だけでなく、患者様の心の痛みを汲んだ社会貢献が出来るよう頑張ってください」とのこ



前列右から5番目より、谷学長、須藤会長、岡崎名誉会長、開原大学院院長、佐々木前副学長。

挨拶があり、各奨学生からは、学校生活や私生活についての近況報告があった。今年卒業する四年生九名は「卒業後は本制度の趣旨に反しないよう、保健・医療・福祉の現場で社会貢献することが恩返しにつながると考えている」と、感謝とお礼の言葉を述べた。

ミヤンマーとカンボジアからの留学生が民族衣装でお迎えし、和やかな中にも華やかな懇親会であった。(本校学生課)

第二期初期臨床研修指導医 養成ワークショップ開催

当グループでは臨床研修事業の一環として、厚生労働省の指針に則った「指導医講習会」を開催し、指導医の養成に積極的に取り組んでおります。昨年九月に東京地区で実施された第一回に続き、九州地区を対象とした第二期の指導医養成ワークショップを開催しました。

二月一〜二日、本学福岡県大川キ



講習会でのロールプレイ



ワークショップ参加者の記念撮影

ャンパスにおいて、高木病院、柳川リハビリテーション病院等のグループ関連施設のほか、外部公募により申込のあった福岡県内の研修病院などから、研修医の指導に携わる医師二五名が参加しました。

このワークショップでは、グループ作業やロールプレイといった手法を通して、指導に必要とされる研修プログラムの作成や指導医の役割、心のケアなどを学びます。二日間で一六時間とハードなものです。終了後には数多くの参加者から「価値ある講習会だった」「習得したことを今後の指導に取り入れたい」等の声が聞かれ、病院の垣根を越えた参加者同士の懇親も図られるなど、大変有意義なものとなりました。

今後この指導医ワークショップを定期的に開催し、周辺地域の臨床研修体制充実と質の向上にお役立てできるように取り組んでいきたいと考えております。

(中央臨床研修委員会事務局)

サークル紹介

ボランティアサークル「かざはな」

二〇〇六年度代表・薬学部三年 齋藤徹

「かざはな」は、国際医療福祉リハビリテーションセンター内にある、なす療育園、那須療護園、那須デイセンターと、おたわら総合在宅ケアセンター内にある、おたわらマロニエデイケアサービス、おたわらマロニエデイサービス、おたわらマロニエホームの計六つの施設で、身体障害者、知的障害者、認知症、重症心身障害児、デイサービス通所者など、幅広い領域の利用者さんを対象に活動している。

各施設が大学構内にあるため移動の時間がかからず、自分の時間に合わせて活動でき、ふれあいボラ、音楽ボラ、飾り付けボラ、リハビリサボートボラ、絵本・詩集作りボラ、喫茶ボラ、洗濯物整理ボラ、外出ボラなど、一六ある活動グループの中から、自分に合った活動が見つけられる。ミーティングや施設側との打ち合わせは頻繁に行い、月に一回、部員全員参加による定例会を開く。定例会では、活動報告をするほか、顧問・副顧問の先生や施設職員さん、ボランティアコーディネーターさんから貴重なお話を聞かせて頂く。さらに、車椅子講習会、認知症サボーター講習会、リネン講習会などに参加し、ボランティアとしての知識・技能を高めることに努めている。二〇〇名近い登録者があり、将来に繋がる仲間ができることも大きな魅力である。



車椅子講習会に参加

さらに二つの大きな特徴がある。一つは「リハビリの現場でサボートボラができる」こと。これは、医療福祉系の学生であること、長年の活動実績があること、施設側との信頼関係があることなどのため、可能となっている。

二つ目は「施設内にボランティアセンターがあり、専従のコーディネーターがいる」こと。コーディネーターが施設側とボラの受け入れや活動に関して綿密な調整をはかるなど、学生だけでは解決できない問題に対処して下さる。また、さまざまな相談につけて下さる。顧問・副顧問の先生、職員さんからの後方支援もあり、恵まれた環境にある。

かざはなは年間を通してさまざまなイベントを企画し、参加している。大学のコーラス、アカペラ、ハンドベル、箏曲などの音楽系サークルやチャリティイベント系サークルと幅広い交流があり、その縁から時折施設で演奏してもらおう。施設の夏祭りやクリスマス会などにはお手伝いとして参加し、楽しい時間を一緒に過ごす。学園祭には、利用者さんや職員さんと一緒に構内の模擬店を回る「満喫ツアー」を企画し、学園祭を楽しむ。これらの実績が評価され、二〇〇六年度に財団法人学生サボーターセンターから、表彰と助成金を受けた。今後も、かざはなは全国トップクラスの規模を持つボランティアサークルとして成長を続けていきたいと考えている。



臨地実習指導者会議

懇親会では和気藹々とした雰囲気のか、お互いに貴重な情報交換をすることができた。

出席者からは「他施設の視能訓練士同士で臨地実習に関して話す機会をもつことができ、たいへん良かった」とのご意見もいただいた。

皆さまのお陰で成功裡に会議を終了できたことを感謝申し上げます。

(視能療法学科講師 三柴恵美子)

言語聴覚学科

国家試験壮行会を開催

国家試験を三日後に控えた二月一四日、言語聴覚学科毎年恒例の国家試験壮行会が開催された。

はじめに藤田郁代学科長より国家試験目前の過ごし方、試験当日の注意など熱のこもった激励の言葉があり、続いて東



「合格するぞ、オー！」

京・湯島天神の「合格祈願鉛筆」が配られた。全員合格を願い、ゲンを担いだドーナツとジュースを飲みながら、アドバイザーごとに教員と学生が歓談し、国家試験に向けて英気を養った。最後には全員立ち上がり「合格するぞ、オー！」と拳を振りあげ、心を一つに全員合格を誓った。

(言語聴覚学科助教 谷倉信一)

福岡リハビリテーション学部の新校舎が竣工

福岡リハビリテーション学部の新校舎二棟が二月末に竣工した。新たに建設されたのはB棟とC棟の二棟で、四月に定員四〇

二〇〇七年度入試が終了

三月五日の一般入試後期日程最終日もって、本学の二〇〇七年度入学試験が全て終了した。

二〇〇七年度入試は、一般入試地方試験場の拡充、一部学科における高校推薦入試での指定校制導入や選抜方法の変更など、受験生にとってはより受験しやすい環境を整えての入試であった。しかしながら、いよいよ「大学全入(大学の入学定員総数と志願者数が同じになる)時代」幕開けの年を迎え、本学でも昨年度高倍率であったことによる、いわゆる隔年現象の影響や、他大学における類似学科新設ラッシュの影響等も受け、志願者数は七三四二名という結果となった。

●2007年度入試 学部別志願者数

学部	定員	志願者数()は昨年度
保健医療学部	480名	3125名 (4274名)
医療福祉学部	240名	491名 (754名)
薬学部	180名	611名 (1041名)
小田原保健医療学部	130名	2369名 (1958名)
福岡リハビリテーション学部	160名	746名 (825名)
合計	1190名	7342名 (8852名)

視能療法学科 臨地実習指導者会議を開催

二月二日、視能療法学科の第三回臨地実習指導者会議が開催された。今回の会議は、大田原本校と乃木坂会場のサテライトを利用して実施され、関連施設も含め四一実習施設中一四施設、一六名の実習指導者が出席された。

意見交換会では、日本大学医学部附属板橋病院の福山千代美氏より、臨地実習受け入れ施設アンケート調査報告についてのプレゼンテーションがあり、臨地実習を受ける側からのさまざまな問題提起がなされた。またそれを受けて、意見交換会やその後の懇親会で活発な討論が展開された。

「まだ視能訓練士免許を取得していない学生に点眼実習をする場合、どうしているのか」など、実習を受ける側が日頃感じている問題点についても知ることができ、たいへん有意義であった。



写真上…正面より見た新校舎
写真下…新校舎(中央左)とその正面から横手にかけて広がる新グラウンド

名で開設される言語聴覚学科、および同じく四月から定員が八〇名に増員される理学療法学科に対応したものである。

新年度からは、理学療法、作業療法、言語聴覚の三学科を擁する、九州初のリハビリテーションの総合私立大学として、学部名称を福岡リハビリテーション学部と改めて再スタートする。

四階建てのB棟には、主に言語聴覚学科関連の実習室や大小の一般講義室が整備された。理学療法、作業療法の両学科も、一、二年生の間は、この新棟での授業が中心になる。また一階には、新たに学生食堂がオープンする。

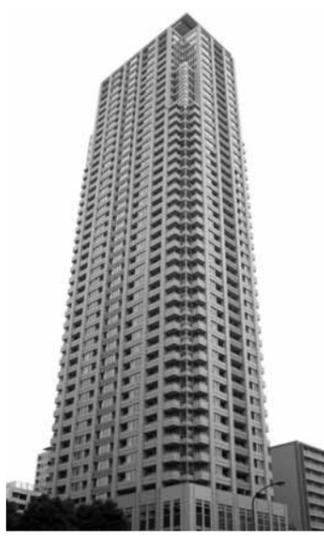
隣接するC棟には、三五〇名が収容できる階段式大講義室が完成。福岡リハビリテーション学部にとっては、収容人数最大の講義室となる。ここは、市民公開講座など、地域交流の場としての活用も検討されている。なお、既存のA棟とは屋根つきの回廊で結ばれる。

同時に整備されていたグラウンドは、スポーツ系サークルの活動の場となりそうだ。グループの専門学校と福岡リハビリテーション学部との四校合同運動会が、この新グラウンドで五月に開催されること決定している。

(九州広報 原田ちはる)

大学院東京サテライトキャンパスが青山一丁目に移転

大学院では、東京をはじめ、全国各地にサテライトキャンパスを設置し、社会人が学びやすい環境を整えている。東京サテライトキャンパス（以下東京SC）は、これまで乃木坂にキャンパスを設置していたが、このたび、地下鉄の青山一丁目駅前に建設された「青山一丁目タワー」の四・五階に移転することとなった。青山一丁目タワーは、「南青山一丁目目地建替プロジェクト」で誕生した複合施設「青山一丁目スクエア」を構成する二棟のビル（四六階建てのN棟、一四階建てのS棟）の一つ（N棟）で、本学大学院東京SCおよび賃貸集合住宅、港区立図書館、商業施設が入る。S棟には、都営住宅、港区立保育園および本学グループである医療法人財団順和会による「グループホーム青山」（次頁参照）が設置される。



青山1丁目タワー

新キャンパスは、大学院教育はもちろ

んのこと、「医療福祉生涯教育の拠点」として、医療福祉専門職の方や地域の皆様の多様な学びのニーズに応えるセンタリー的な役割を果たすべく、より一層環境の充実に努めたい。

※新東京キャンパス所在地：港区南青山一丁目三番 青山一丁目タワー4・5F 地下鉄銀座線・半蔵門線・都営大江戸線「青山一丁目」駅徒歩一分

乃木坂スクール二〇〇七年度前期開講のご案内

大学院では、授業の一部を公開講座「乃木坂スクール」として開講している。医療・福祉に関する多彩な講座が開講されており、これまでに一五〇名を超える方に受講していただいている。テーマに合わせて著名なゲスト講師をお招きし、関心の高い多くの方に受講していただいている。また、大学院生にとっても、熱心な一般受講者の方と机を並べて学習することは、大変良い刺激となっている。乃木坂スクールは二〇〇七年度も下表の通り講座の開講を予定している。本学大学院生はほとんどの講義が無料で、卒業生・修了生および教職員は半額以下で受講が可能であるので、ぜひ自己研鑽の一環として役立てていただきたい。

大学院に臨床心理学専攻開設

平成一九年度より大学院修士課程に臨

私のおすすめ本

第4回

モリー先生との火曜日
ミッチ・アルボム著（別宮貞徳訳）
NHK出版 九九八円（普及版二〇〇四年）

「死」は誰もが経験することであるが、いざ直面すると、恐怖を感じて、自分の人生を冷静に分析し、理解することはできなくなるだろう。元気であった頃のモリー教授は当時過激派学生の大勢いたる大学を解放し、学生に対する教育において講義よりも討論を、理論よりも実地の経験を重視して学生達自身の存在価値を感じ取らせることで学生の抗議の調停役を務めた。彼の授業は職業技術よりも人格形成を重く見ていた。社会に適応できる人間形成を行う彼の行動は高い評価を受けた。

七〇歳代になってALS（筋萎縮性側索硬化症）との診断を受け、余命二年とみられた彼は、

視機能療法学科教授 小原喜隆

学生への講義を自宅のベッドルームで毎週火曜日にいった。ベッドの上での生活を余儀なくされた彼は「人生をこうと思ったとおりに生きよう（生きてみよう）」と決めた。人生に手遅れはないからである。講義のテーマは人生の「意味」について、世界を語る、自分の哀れむこと、後悔、死、家族、感情、老いの恐怖、愛は続く、許しについて、などをめぐって講義がなされた。学生は彼の体調に合わせて頭を持ち上げたりして世話をする必要があった。

彼は死を宣告されたが、自然のことと受け止めた。われわれは死を免れぬことを頭では理解しながら、通常はあたかも死ぬことがないような生活を送っている。お互いに愛し合えるかぎり、死んでも愛はすべて残り、思い出は生き続ける。

死の床で行われる授業に教科書はない。読んだ後で心が穏やかになる本である。

「グループホーム青山」がオープン

医療法人財団順和会による「グループホーム青山」（認知症対応型高齢者共同生活介護施設）が、四月に地下鉄の青山一丁目駅ほど近く（徒歩三分）に開設された（東京都港区）。

本学大学院の東京サテライトキャンパスや区立図書館、都営の賃貸住宅や商業施設が一体となった複合施設「青山一丁目スクエア」（四七階と一四階の二棟）の低層棟（S棟）二階部分に位置する。都心に立地する特徴を活かすとともに、入居対象者を港区民に限定することで、住み慣れた環境の中で健康的な都市生活を



青山一丁目スクエアS棟。この二階部分に開設された。

送ることができるよう配慮された、地域密着型のグループホームである。

医療面では、至近距離に位置する山王病院と、同じ港区内にある国際医療福祉大学三田病院のバックアップ体制が整っていることで、ご入居者には、安心して生活していただける。

二十一世紀型の新しい介護施設のモデルとして注目される。（出版広報室）

新規着任教員紹介

教員氏名

- ①所属・職名
- ②生年月日
- ③最終学歴
- ④専門分野
- ⑤前職
- ⑥授業担当科目
- ⑦今後の研究課題
- ⑧学会役職・その他

Photo

所属

所属

堀部俊哉（ほりべ・としや）



- ①外科・消化器センター／教授
- ②1959年6月20日
- ③東京医科大学医学部医学科卒
- ④消化器、肝臓、なかでも肝腫瘍の診断と治療
- ⑤東京医科大学病院消化器内科講師
- ⑥内科学、消化器病学
- ⑦肝腫瘍の血流（血行）動態、癌治療とDrug delivery system
- ⑧日本消化器病学会関東支部評議員、東京医科大学兼任講師、日本消化器病学会専門医、日本医師会認定産業医、日本内視鏡学会専門医・指導医、日本内科学会認定医

三田病院

田島康夫（たじま・やすお）



- ①病理部／教授
- ②1960年8月2日
- ③千葉大学大学院医学研究科修了
- ④外科病理学、細胞診断学
- ⑤帝京大学医学部附属溝口病院臨床病理部講師
- ⑥病理学
- ⑦ヒトパピローマウイルス感染の発がんリスク評価、ウイルス発がん、ニューロトロフィックファクターと腫瘍細胞分化
- ⑧日本病理学会学術評議員・病理専門医・病理研修指導医、日本臨床細胞学会評議員・細胞診指導医、日本臨床検査医学会評議員・臨床検査専門医・臨床検査管理医、オートプシー・イメージング学会理事、Member of International Academy of Pathology

三田病院

棚田修二（たなだ・しゅうじ）



- ①放射線科／教授
- ②1950年6月22日
- ③京大医学部医学科卒
- ④放射線医学、核医学
- ⑤独立行政法人放射線医学総合研究所特別上席研究員
- ⑥放射線医学、核医学
- ⑦がんの画像診断技術の開発、融合画像技術による治療支援システムの開発、核医学診断・治療技術の臨床応用開発
- ⑧日本核医学会評議員、日本磁気共鳴医学会代議員、中国浙江大学医学院第二病院客員教授、中国山西医科大学第一臨床病院客員教授、放射線医学総合研究所客員協力研究員、医学博士

三田病院

	講座名	コーディネーター	開講曜日・時間	受講料
★01	逆風に打ち勝つ経営のヒントを先進経営者に訊く	高橋泰	月18:30~20:30	¥36,000（前半・後半のみの受講も可。その場合各20,000円。）
★02	医療情報システム概論	開原成允	火18:00~19:30	¥36,000
★03	介護予防・認知症を治すケアのための講座	竹内孝仁	水18:30~21:00	¥36,000
★04	創薬育薬医療チームにおけるCRCの役割	中野重行	水18:30~20:00	3コース各¥15,000 全回受講¥36,000
05	病院のIT化と経営戦略への応用	開原成允他	水18:30~20:30	¥50,000
★06	住環境整備の手法を探る	野村欽	木18:30~20:30	¥36,000
★07	「変革期の医療・福祉」への処方箋	水巻中正 丸木一成	金18:30~21:10	¥36,000
★08	治験モニター【CRA】業務の実際と留意事項①	野口隆志	金18:30~20:00	¥36,000
09	診療情報管理講座初級・中級A	鳥羽克子	月1回・土 13:00~17:50	¥36,000
10	実践のための対人援助技術	相原和子	月1回・土 17:00~19:30	¥60,000
11	スーパービジョン実践力養成講座	相原和子	月1回・土 17:00~19:30	¥60,000
12	英語で学ぶソーシャルワーク	相原和子 南井紀子	月2回・金 18:00~20:00	¥36,000

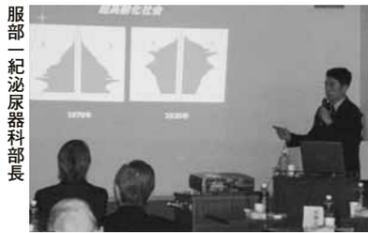
※★のついた講座は、遠隔授業で行いますので、東京・大田原・小田原・福岡・大川で受講可能。
※卒業生・修了生・教職員は、36,000円の講座を15,000円で受講できます（その他についてはお問い合わせください）。

床心理学専攻が開設された。一学年一五名の定員で、東京キャンパスにて教育・実習を行う。

教員スタッフには、安島智子（あじま・ともこ）専攻主任をはじめ、キャリア豊富な多数の先生方をお迎えすることができた。実際に心理相談を行う心理相談室

をはじめとする各種設備の準備も無事整い、医療福祉の総合大学である本学の利点を最大限に活かした、時代のニーズに合った臨床心理士を養成したいと考えている。

（大学院東京キャンパス 大澤倫子）



前立腺癌は、人口の高齢化に伴い、罹患率・死亡率ともに今後ますます増加し、二〇二〇年には肺がんに次いで多いがんになると予測されています。病診連携・病病連携の確立が急がれています。

- ④ 質疑応答
- ③ 講演「前立腺癌の診断と治療 医療連携に向けて」(泌尿器科部長・教授 服部一紀)
- ② 三田病院院長挨拶
- ① 港区医師会副会長挨拶

「三田がんフォーラム」レポート
 当院で開催している「三田がんフォーラム」は昨年八月のスタート以来、隔月で開催を続けており、すでに四回まで回を重ねてきました。さらに、昨年末の第三回からは地元の港区医師会の後援をいただくようになり、当院で行っているがんの診断・治療の最前線を紹介するとともに、医師会員の皆さまとの情報交換の場にしていきたいという、当フォーラムの役割がますます重要になってきています。

● 第三回 三田がんフォーラム
 (二〇〇六年二月一五日開催)



鎌田信悦頭頸部腫瘍センター長・教授

「頭頸部がんとは」
 鼻癌・副鼻腔がん
 上・中・下咽頭がん
 口腔がん
 喉頭がん
 甲状腺がん
 唾液腺癌
 ・鎌田信悦

- ④ 質疑応答
 - ③ 講演「頭頸部がんについて」(頭頸部腫瘍センター長・教授 鎌田信悦)
 - ② 三田病院院長挨拶
 - ① 港区医師会副会長挨拶
- 「頭頸部がんとは」をテーマに、日本における治療方針の変遷や、当院における多数の手術例などが報告されました。
- なお、鎌田信悦医師を大会長として、「第一九回日本頭蓋底外科学会」が次の通り開催される予定です。教職員は参加費無料ですので、興味のある方はぜひご参加ください。
- 第四回 三田がんフォーラム
 (二〇〇七年二月二八日開催)



発表を行う循環器内科・重政朝彦教授

一月二〇日、当院栄養相談室主催で糖尿病フェスティバルが開催され、約一〇

名に上り、当院医師も数多くが参加し、積極的に発表を行い、交流の場として有益な時間を過ごしました。

五、誰にもわかる画像診断をめざして開催二日間の合計参加者数は約八〇〇名に上り、当院医師も数多くが参加し、積極的に発表を行い、交流の場として有益な時間を過ごしました。

- ④ 質疑応答
 - ③ 講演「明日の画像医学をめざして」(「挑戦」明日の画像医学をめぐって)
 - ② 癌の画像による診断・治療の進歩と課題
 - ① 超音波と放射線のさらなる連携
- 三、3Dイメージから4Dイメージ
- 四、各科領域における画像医学・医療の進歩と課題
- 五、誰にもわかる画像診断をめざして開催二日間の合計参加者数は約八〇〇名に上り、当院医師も数多くが参加し、積極的に発表を行い、交流の場として有益な時間を過ごしました。



厚生労働省食事療法用宅配食 品栄養指針のガイドラインをクリアした食事例

「挑戦」明日の画像医学をめぐって

一、癌の画像による診断・治療の進歩と課題

二、超音波と放射線のさらなる連携

三、3Dイメージから4Dイメージ

四、各科領域における画像医学・医療の進歩と課題

五、誰にもわかる画像診断をめざして開催二日間の合計参加者数は約八〇〇名に上り、当院医師も数多くが参加し、積極的に発表を行い、交流の場として有益な時間を過ごしました。

- ④ 質疑応答
 - ③ 講演「明日の画像医学をめざして」(「挑戦」明日の画像医学をめぐって)
 - ② 癌の画像による診断・治療の進歩と課題
 - ① 超音波と放射線のさらなる連携
- 三、3Dイメージから4Dイメージ
- 四、各科領域における画像医学・医療の進歩と課題
- 五、誰にもわかる画像診断をめざして開催二日間の合計参加者数は約八〇〇名に上り、当院医師も数多くが参加し、積極的に発表を行い、交流の場として有益な時間を過ごしました。

施設インフォメーション

附属病院

国際医療福祉大学病院

祝・国際医療福祉大学病院除幕式



二〇〇七年二月一日、当院は正式に国際医療福祉大学の附属病院となりました。当日は暖かい日差しの中、谷修一学長・佐藤郁夫病院長の手

で除幕が行われ、新しい病院名「学校法人国際医療福祉大学 国際医療福祉大学病院」が披露されました。

今後は大学の附属施設として、これまでに以上に医療に関する知識の習得を実践し、的確な診療・看護の強化に努めるべく職員一同決意を新たにしております。そして、栃木県北の拠点病院としての自覚を持ち、地域住民の皆さまの健康維持、疾病治療のご期待に沿えるようより一層努力してまいります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。(管理課 磯 孝幸)

ようこそ医療安全管理室へ

医療者としての最終目標は、皆同じです。少なくとも、全ての人が等しく、適切



で、必要十分な医療を受けることができ、できるだけ早期に退院させ、無事に社会へと送り出すこと。医療安全という考え方はその全過程に密着に関わってきます。安全で良質な

医療の実践は非常に難しく、実現するためには病院全職員の認識と自覚がとて大切で、それを補助するのが、この医療安全管理室の仕事です。

具体的な仕事内容は、インシデント・アクシデントレポートの集計・分析、医療安全講習会の企画・開催、各部署間の連絡・調整、医療ミス発生防止のための提案などです。医療安全講習会には全職員を対象に月二回開催され、専門の講師の方々に講演を依頼し、職員の知識の向上をはかる良い機会となっております。

安全管理をしていく上で最も重要なのは、職員一人ひとりが「どうすれば患者様に最大限の利益を還元できるのか?」といった大前提に立って話し合うことです。そのためにも、自由、公平で活発な議論ができる環境が必要です。問題をそのままにしないこと、皆で話し合い考え合うこと、情報を共有すること、そしてそのための時間を病院側が十分に確保すること。これらは必ず医療安全につながるはずで、医療安全に対する「文化」が病院全体に根付くよう、より多くの情報を提供していきたいと思えます。今後とも医療安全管理室をよろしくお願ひいたします。(看護部 天生目理香)

学生の受験レポートに、教科書を見て考えれば容易にわかる課題を出した。あるとき学生たちが「飯沼先生の課題は一番難しい」と言うので、理由を聞く。「考えないといけないから」だと言う。図書館で難しい参考書を探し当く、それを写してホッとするケースが多いようだ。現在の教育で私が一番危機感をもっているのはこのことである。とくに範囲が広く比較的難解な内容を詰め込もうとする、時間をかけて考える余裕がなく、丸暗記や丸写しに走る傾向が強くなる。講義に演習や実験を連携させて深く考え理解する訓練を心がけているが、とても十分とは言えず、私自身の重要な課題でもある。

私は子どものころ物を作るのが好きで、ときに食事も忘れて熱中したが、素材がそろっているものには興味がなく、もっぱら自分で工夫しなければならぬ廃物利用に興味があった。大学は工学部へ入学し、大学院博士課程まで進んで日夜研究に取り組んだ。私は「何故か」が理解できないと、なかなか納得できない性格だったから、わずかのことを理解するのに多くの時間を費やした。時間はかかるが、一度理解すると応用範囲が広がる。一方、論文はなかなかまとまらず、大学院は満期退学となり、その後一年半をかけてやっと論文を書き上げ、何とか学位を取得した。学部時代から七年を費やしたこの研究は、世の中のためには何の役にも立たなかったが、常に何故かを考え深く理解する訓練が、後にライフワークとして取り組んだ医用機器の研究開発につながった。

私の主張 第4回 常に「何故か」を考えよう 放射線・情報科学科教授 飯沼一浩

発で実を結んだと考えている。大学院で研究を続けながらずっと考えていた大きな問題は「工学は役に立つ学問なのか?」ということである。科学技術は人殺しの兵器にも使われるのではない。考え続けて行き着いた結論は「科学技術はそれ自体よいものでも悪いものでもない。科学技術は人間の欲求によって発展し続け、その欲求を止めることはできない」というものであった。そこで「工学を医療の役に立てたい」と考え、縁あって一九七一年に東芝に入社、超音波診断装置の研究開発に没頭した。幸運にもこの研究成果は製品として臨床にも使用されるようになったが、研究の推進力となったものは、他社の真似ではなく、自分が考えた独創的な製品を世に出し医療に役立てたい、という強い欲求であったと思う。

自分の頭で考え、お手本のないものを作り出すことは、研究開発のみならず他の分野、とりわけ政治にも必要とされる。環境、エネルギー、高齢化社会への対応、戦争のない世界の実現など、お手本のない二世紀の重要な課題の解決に向けて、わが国がぜひ指導的役割を担ってほしい。そしてお手本のないものを生み出すには、その基礎に常に何故かを考える掘り下げた思考の訓練が不可欠ではないかと考えている。

※この文は「昨年七月に『下野新聞』の「学問のスヌメ」欄に掲載されたものに修正を加えたものです。

晴れ着姿で救命活動
日本堤消防署長より感謝状贈られる

当院外科病棟・松愛子看護師が、両親と共に浅草へ出掛けたのは正月明けの一月一日のこと。「今半」前の路上を歩いていると後方で大きな音がして、「人が倒れた」という声が……。松看護師がプロ意識からとつさに音のした方へ駆け寄ると、女性が意識を失い倒れていました。観察したところ、女性は心肺停止状態。松看護師は近くに居る人に救急車の出動依頼をすると同時に、晴れ着姿であるのも物ともせず、手持ちのビニール袋に穴を空け女性の口にあてがいマウスとウマウスの人工呼吸、心マッサージなどの救急蘇生処置を施し、到着した救急隊にバトンタッチしました。女性は一命を取りとめました。この間、野次馬からは「動かさない方がいい！」などの声も聞かれ、お母様は「この子は看護師なんです」と周囲を説得され、お父様も着物の袂を持つなど協力。ご家族あげての救命活動でした。

「自分では特別なことをしたという意識はなく、自然に身体が動いてしまったという感じでした。自分の判断、処置が適切であったかどうか今でも葛藤はありますが、逆に何もしなかったらもっと後悔していたかもしれません。両親からは『看護師になってよかったね。ここまでしてくれた病院に感謝しなさい』と言われ、自分でもそう感じています」(松看護師)

この迅速な人命救助に対して、松看護師とご両親に東京消防庁から消防総監感

謝状が贈られ、一月二四日に山王ホールで表彰式が行われました。皆さまはこのような場面に遭遇したらどうしますか？ 彼女のように行動を起こすのはとても勇気のいることです。が、医療に携わる者として、ぜひ自分のできる範囲で救命に協力していただきたいと思えます。ここで、救急蘇生ガイドラインが出している、市民が行う基礎的救命法について簡単に紹介します。

- ① 声をかけ反応を見ると同時に救急車を要請する
- ② 反応がなかったら気道を確保する
- ③ 呼吸、脈拍の有無を観察する
- ④ 呼吸がない場合、人工呼吸を開始
- ⑤ 脈拍がない場合、心マッサージを開始
- ⑥ 近くにAEDが設置されている場合は躊躇せずに装着する

※最近では④なしでも有効とされている
心停止時間が二分で九〇%、五分で二五%の救命率といわれ、一刻も早い心肺蘇生の開始が必要です。

山王病院では今後も定期的に全職員あがりの救急蘇生訓練を実施し、万が一の場面に遭遇した際に冷静に対処できるように備えたいと考えています。

(看護部長 丸山和美)



謝状が贈られ、一月二四日に山王ホールで表彰式が行われました。皆さまはこのような場面に遭遇したらどうしますか？ 彼女のように行動を起こすのはとても勇気のいることです。が、医療に携わる者として、ぜひ自分のできる範囲で救命に協力していただきたいと思えます。ここで、救急蘇生ガイドラインが出している、市民が行う基礎的救命法について簡単に紹介します。



大川市「未病と健康のつどい」開催！
第一回市民健康フォーラム in 大川

「若さと美しさを保ちたいあなたのために」
大川市「未病と健康のつどい」(主催：大川市、日本未病システム学会/後援：大川三滞医師会、福岡県医師会、大川女性ネットワーク、国際医療福祉大学、マスコミ各社)が三月二五日、大川市文化センター大ホールで開催されました。

市民の健康増進を願う大川市の植木光治市長と、日本未病システム学会常任理事の山本匡介・高木病院院長との話し合いで実現しました。自治体・学会・病院(事務局)による三者連携は、地域医療活動のあり方に一石を投じたものと注目を集めました。

「未病」とは、病気としての症状は現れていないが、将来的に大きな病気になる可能性のある状態、つまり「健康」と「病気」の中間の状態です。もともとは「未だ病にあらざ」という中国古来の考え方で、未病のうち治療をして健康を保とうというものです。

講演では、生活習慣病とがんの分野における一流の

先生方に登場していただき、三大疾病の予防法や最新の治療法をわかりやすく解説していただきました。当日は、高木病院・山本病院院長と植木大川市長の主催者あいさつで始まり、一ノ瀬穂積・大川三滞医師会長の来賓あいさつの後、「脳卒中の予防と治療はここまで進んだ」(重森稔・久留米大学脳神経外科教授)、「心臓病で死なないために」(野出孝一・佐賀大学医学部循環器・腎臓内科教授)、「肝臓病は予防できる」(山本匡介・高木病院院長)の三つの講演と「男と女の更年期」と題した日本未病システム学会前理事長で東京大学医学部老年科教授の大内尉義先生による特別講演がありました。大内教授は、男女ともホルモンの減少が生活習慣病の増加につながっていると指摘。「亭主を早死にさせる十カ条」や、長寿の秘訣「か(感動する)・き(興味を持つ)・く(工夫する)・け(健康を気にかける)・こ(恋心を持つ)」を提唱し、笑いと拍手を浴びていました。

会場にはほぼ満員の九〇〇人の一般市民が来場してメモを取りながら熱心に耳を傾けており、市民の皆さんの健康に対する関心の高さがうかがわれました。

山本院長は「初めての試みだったが、有意義に終了することができた。著名な先生方に来ていただいたのと、大川市内外の各団体のご協力の賜物だと思ふ。今後、市民の健康増進と健康管理を促すために一人でも多くの方々に参加していただければ、定期的に開催していきたい」と話しています。

(高木病院広報室 鶴田憲司)



生まれ変わる化研
新棟オープン竣工式・内覧会開催

昨年四月から建設中であった新病棟がこのほど完成し、新しい化研病院を広く紹介する機会として二〇〇七年二月二四日(土)に竣工式および内覧会を開催しました。

当日は地元医師会をはじめ、市川市役所など行政関係の方々、各医科大学の先生、そして地域の患者様、総勢約六〇〇名の方にお越しいただき、新外来・病棟を披露しました。市川市内で初導入となる64列マルチスライスCT、国内最高レベルの1.5テスラMRIをはじめ、三つの手術室、七人同時治療が可能な化学



本館の病室

療法室、そして普段は立ち入ることのできない手術室などをご覧いただきました。また、装備を一新し従来より一層充実したりハビリテーション室や、個人の空間を重視しアメニティの豊かな自然景観を楽しんでいただけたいと思います。特にCTやMRI等の高度医療機器については、地域の患者様や近隣医療機関から終日途切れることなく質問があり、関心の高さがうかがえました。

竣工式では高木邦格理事長、谷修一学長の挨拶に続き、藤森宗徳千葉県医師会会長から「医療界の厳しい風波のなか、新病棟の完成はたいへん朗報」と祝辞が述べられました。さらにご来賓の方々により五つの樽が開かれ、地域医療における今後の貢献を祈念しました。

今後、旧棟の改修および解体工事を行い、最終的には本年五月下旬にグランドオープンの予定です。生まれ変わった化研病院を皆さまにご利用いただけます。

(人事課 山田さち子)



鏡割り(竣工式)

療法室、二二床の人工透析室などを配置し、従来の慢性期医療に加え急性期医療もさらに充実させました。

内覧会では、外来診察室から始まり、臨床検査室、放射線室、内視鏡室、化学療法室、化学療法室、二二床の人工透析室などを配置し、従来の慢性期医療に加え急性期医療もさらに充実させました。



恩賜館(左)と本館

当院は一九三九年、結核に対する化学療法の研究開発を促進する財団法人として設立された化学療法研究会の化学療法研究所附属病院として発足しました。以来、国をあげての結核克服事業の一端を担って鋭意力を注ぎ、その重要性から三井財閥の三井報恩会から支援を受ける一方、明治天皇の御質問所「恩賜館」を宮内庁(当時)より下賜されるという歴史を刻んできました。

二〇〇五年春、国際医療福祉大学の臨床医学研究センターとしての役目を担い、学校法人と別組織でありながらも大学の関連施設として連携することで、大学で学ぶ学生の教育や研究に協力しています。

化学療法研究所附属病院

【新病院建築概要】
敷地面積：22,543㎡
延床面積：10,248㎡
病床：269床 (一般137床、療養44床、結核88床)

医療福祉チャンネル774では、衛星放送スカイパーフェクTV!774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

国際医療福祉大学アワー

IUHWの情報が満載

入学式や卒業式、運動会・大学祭などの行事、臨床実習や海外研修・国際活動、そしてクラブやサークルの紹介、先生方へのインタビューなど、国際医療福祉大学（IUHW）に関する情報満載の番組です。本学学生の皆様はもちろん、ご家族の方々も是非お楽しみください。



◀平成18年度国際医療福祉大学卒業式

新コーナー「この学科に集え！」

医療福祉の総合教育を行っている本学から、毎回1学科を取り上げ、学ぶ内容や目指す職業、資格の他、在籍する学生を紹介します。受験生には、大学に入学して何を学びたいか、将来どのような仕事をしたいかなどの参考に、一般の皆様には、普段なかなか目にできない、医療福祉の現場と医療福祉の専門職育成過程をご覧いただけます。第1回は医療経営管理学科を取り上げます。



◀医療経営管理学科の授業風景

看護師配置7対1を考える

黒岩祐治のメディカルレポート第35回 さまよえる医療難民～ナース不足で病院崩壊！?

平成18年4月の診療報酬改定で看護師の配置基準が改められ、1人が受け持つ入院患者数が10人から7人に減りました。過重労働の緩和や患者さんへの手厚い看護が狙いですが、これにより看護師の病院間の引き抜きや都会の病院への移動が起きました。新制度により看護師不足は解消するのでしょうか。それとも、ますます不足していくのでしょうか。看護師配置7対1を考えます。



◀左：黒岩キャスター（国際医療福祉大学客員教授）
右：久常節子氏（日本看護協会会長）

リハビリテーションOTアワー「作業療法の実際」

ADLアプローチの実際第4回 片麻痺患者 生活時のワンポイント～排泄・更衣・入浴～

実際の現場の映像を使って、詳細に解説するシリーズ「ADLアプローチの実際」の最終回です。今回は、片麻痺患者の方のトイレ・ポータブルトイレの使用方法、上着・ズボン・靴下などの着衣、靴の履き方、整容（歯磨き・洗顔）、入浴などの生活におけるさまざまな動作や介助のコツについて、生田宗博氏（金沢大学大学院教授）が実演を交えて詳細に解説します。



◀片麻痺患者モデルによるトイレの使用方法

●医療福祉チャンネル774を見るには

「医療福祉チャンネル774」は衛星放送スカイパーフェクTV!の774チャンネルでご視聴いただけます。ご視聴には、スカイパーフェクTV!専用アンテナ&チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ!
○視聴料・・・月額2,100円（このほかに、スカイパーフェクTV!加入料・・・2,940円（初回のみ）・スカイパーフェクTV!月額基本料・・・410円がかかります）
法人契約・・・5,250円
○IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問い合わせください。

●視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774（(株)医療福祉総合研究所 お客さま係） Eメール info@iryofukushi.com HP www.iryofukushi.com/

広報誌 IUHW 69号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原本校〕 広報委員会

栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000

〔小田原キャンパス〕

神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500

〔大川キャンパス〕

福岡県大川市櫻津137-1 ☎0944-89-2000

〔東京事務所〕 出版広報室

東京都港区南青山1-24-1 ☎03-5775-2505

デザイン：iDept. 写真：米山真人ほか 編集：東京事務所出版広報室

©国際医療福祉大学 2007 Printed in Japan 禁無断転載・複写

お知らせ

IUHW Information

●学部名称の変更について

4月1日より大学の学部名称を以下のように変更いたしました。

（旧称）保健学部→（新名称）保健医療学部

（旧称）リハビリテーション学部→（新名称）福岡リハビリテーション学部

●病院名称の変更について

2月1日より病院名称を以下のように変更いたしました。

（旧称）国際医療福祉病院→（新名称）国際医療福祉大学病院

（旧称）国際医療福祉大学附属三田病院→（新名称）国際医療福祉大学三田病院

（旧称）国際医療福祉大学附属熱海病院→（新名称）国際医療福祉大学熱海病院

●山王メディカルプラザの診療業務休止について

山王メディカルプラザでは施設を全面建替える運びとなりました。それに伴い、診療業務を4月1日より一旦休止させていただいております。新しい建物は平成21年1月竣工の予定です。